

Sun Control Station

Health Monitoring モジュール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-5863-10
2004 年 4 月 , [Revision A](#)

本マニュアルについてのご意見は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>までお寄せください。

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、JavaServer Pages、JSP、JumpStart、Netra、Solaris、Sun Cobalt、Sun Cobalt RaQ、Sun Cobalt CacheRaQ、Sun Cobalt Qube、Sun Fire、および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における、米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装する米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されるほか、米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に準拠します。

U.S. Government Rights - Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われたいものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Health Monitoring モジュール 1

監視モデル 2

状態を示す色 3

健全性監視警告 3

判明している問題点 4

設定の不一致 4

健全性監視での予期しない LOM 情報について 4

「Health Monitor」画面 5

健全性サマリー 5

健全性監視データの表示 6

UI の再表示 8

Sun Cobalt サーバーアプライアンス上で監視されるサービス 8

Sun Cobalt サーバーアプライアンス以外のホスト上で監視される
サービス 9

重大イベントのクリア 9

健全性状態データの更新 10

ホストの表示 11

UI の再表示 12

設定	13
アライブポーリング	13
動作状況ポーリング	13
設定の構成	14
アライブポーリングタスクのスケジュール作成	16
動作状況ポーリングタスクのスケジュール作成	17
Health Monitoring モジュールへの新規サービスの追加	18
設定ファイルの形式	19
新規サービスの作成	20

Health Monitoring モジュール

Sun™ Control Station の Health Monitoring (健全性監視) 制御モジュールを使用すると、さまざまパラメータによって管理対象ホストの健全性状態を監視できます。本マニュアルでは、Health Monitoring 制御モジュールを通じて利用可能な機能とサービスについて説明します。

このモジュールで可能な作業は、次のとおりです。

- ホスト、またはホストグループの健全性状態データの概要を表示する
- 管理対象ホストから最新の健全性状態データを取得する
- 管理対象ホスト上のエージェントが応答し、そのホストにネットワーク経由でアクセス可能であることを確認する
- Control Station が、個々のホストから最新のデータを即座に取得できるようにする
- Health Monitoring モジュールのパラメータを設定する
- 重要なシステムイベント (感嘆符の黄色アイコンまたは X 印の赤アイコン) がある場合、Health Monitoring モジュールから警告を受信するための電子メールアドレスを入力する

注 - この章に示すほとんどの手順では、最初の手順で左側のメニューバーにある「Health Monitor」をクリックし、2 番目の手順でサブメニューの項目をクリックします。

各手順の数を減らすため、メニューコマンドをまとめて説明しています。各項目の間に大なり括弧を入れていきます。

たとえば、「Health Monitor」>「View Hosts」は、左側のメニューバーにある「Health Monitor」をクリックしてから、サブメニューの「View Hosts」をクリックすることを意味します。

監視モデル

Health Monitoring モジュールを実現するモデルは、ポーリングとイベントを基盤としています。つまり、健全性状態データは、各ホストからクライアント状態情報を読み出すためのポーリングを開始する Control Station、あるいは問題 (イベント) が生じたときに Control Station に通知を行う管理対象ホストにより獲得されます。

また、イベントモデルを採用することで、問題が検知された場合にすぐに通知できるようになっています。

図 1 に、「Critical Events」テーブルと「Managed Host Group Status」テーブルの例を示します。

表示の更新			
すべてのアラームをクリア			
すべてのアラームを表示			
クリティカルなイベント			
状態	IP	日付 / 時刻	処理
	192.168.2.251	水, 17 3 2004 18:35:34	 
管理ホストグループの状態			
状態	グループ名	ホスト数	処理
	RedHat7.3	3	
	RedHat7.2	1	

図 1 「Health Monitor」テーブル

状態を示す色

各サービスまたはハードウェアコンポーネントの状態は、各項目の横に、色付きの丸とアイコンで表示されます。灰色の円に点線、緑色の円にチェックマーク、黄色の円に感嘆符、または赤い円に X マークがあるアイコンがあります。各色には、次の意味があります。



灰色の円に点線 - 情報がいないか、サービスまたは監視機能がホストで使用可能になっていない



緑色の円にチェックマーク - サービスまたはコンポーネントが正常に機能している



黄色の円に感嘆符 - ホストで中程度の使用負荷があるか、コンポーネントが回復処理中である



赤い円に X マーク - ホストで重度の使用負荷、または障害がある

健全性監視警告

「重大な」イベントが Control Station に存在する場合、UI の左上に動作状況警告が生成されます。

「警告」イベントまたは「重大」イベントへの移行が検出あるいは生成された場合 (健全性ポーリング中に黄色または赤色で示される状態が戻された場合) に、重大イベントが生成されます。

重大イベントは、管理対象ホスト上のサービスやハードウェアコンポーネントに関する事象です。

判明している問題点

設定の不一致

複数の Sun Control Station で、1 台のホストを管理することが可能です。その中のどの Control Station からでも、CPU アラームしきい値など、健全性監視の設定を変更できます。そのため、ある Control Station 上で設定を変更すると、変更された値はすべての管理対象ホストに伝えられます。

このような場合、最も新しい設定変更による値によって管理対象ホスト上の初期値が上書きされますが、他の Control Station の UI に表示される設定には、この設定変更は反映されません。

この問題を解決するには、複数の Control Station で特定のホストを管理している場合、各 Control Station で、健全性監視の設定を必ず同一の値に設定してください。

健全性監視での予期しない LOM 情報について

2 台の異なる Control Station で 1 台のホストを管理できます。

このような特殊な状態では、次の 2 点が要件になります。

- LOM (Lights Out Management) 制御モジュールがどちらかの Control Station にインストールされており、2 台目にはインストールされていないこと
- LOM 制御モジュールのクライアント側ビットが、管理対象ホストにインストールされていること

これらの条件が満たされれば、管理対象ホストから、1 台目の Control Station に LOM 情報が提供されます。この情報は健全性監視用のテーブルに表示されます。

ただし、Health Monitoring 制御モジュールは、LOM 情報が利用可能であれば、その情報を受け取るように設定されているため、2 台目のコントロールステーション上に LOM 制御モジュールがインストールされていなくても、2 台目の Control Station 上の健全性監視テーブルにもこの LOM 情報が表示されます。

これは 2 台目の Control Station のバグや動作異常ではなく、LOM 情報が表示されないはずの健全性監視テーブルに LOM 情報が表示される場合があることにご注意ください。

「Health Monitor」画面

左側にある「Health Monitor」メニュー項目をクリックすると、サブメニュー項目が表示され、管理対象ホストに関するサービスやハードウェアコンポーネントの現在の動作状況を表示、またはその動作状況を更新できます。

次のようなサブメニュー項目があります。

- Health Summary (5 ページの「健全性サマリー」を参照)
- View Hosts (11 ページの「ホストの表示」を参照)
- Settings (13 ページの「設定」を参照)

健全性サマリー

「Health Summary」サブメニュー項目を使うと、管理対象ホストに関する健全性状態データの概要を表示できます。

「Health Summary」サブメニュー項目をクリックすると、「Critical Events」テーブルと「Managed Host Group Status」テーブルが表示されます (図 1 を参照)。

- 「Critical Events」テーブルには、管理者がすぐに対処すべきイベントが表示される
- 「Managed Host Group Status」テーブルには、Control Station 上のホストグループの全般的な状態が表示される

虫めがねのアイコンをクリックすると、次の 3 つのテーブルが表示され、ホストに関する詳細情報を参照できます。

- 「Base System Components」テーブルには、CPU、ディスク、メモリー、およびネットワークに関する情報が表示される
- 「Base Services」テーブルには、特定のホスト上で動作する、FTP サーバー、Telnet サーバー、Email サーバー、および DNS サーバーなど、さまざまなサービスに関する情報が表示される。表示される項目は、参照しているホストの種類に応じて異なる
- 「Other System Services」テーブルには、他社製のサービスやカスタマイズされたサービスなど、管理者がホストに追加したサービスに関する情報が表示される

注 - 新規に健全性監視サービスを追加する方法については、18 ページの「Health Monitoring モジュールへの新規サービスの追加」を参照してください。

健全性監視データの表示

管理対象ホスト上の健全性監視データの概要を参照する手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Health Summary」を選択します。

「Critical Events」テーブルと「Managed Host Group Status」テーブルが表示されます。

2. 重大イベントに関するさらに詳細な情報を表示するには、「Actions」列内の項目の隣にある虫めがねのアイコンをクリックします。

次の情報テーブルが表示されます (図 2 を参照)。

- Base System Components
- Base Services
- Other System Services

前の画面に戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

3. 管理対象ホストグループに関する詳細を表示している場合は、「Managed Hosts State」テーブルが表示され、そのグループに属するホストの一覧が提示されます。

ここでも、「Actions」列内のホストの隣にある虫めがねのアイコンをクリックできます。上記と同じ 3 つの情報テーブルが表示されます。

前の画面に戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

ただちに更新			
健全性監視 - 基本システムコンポーネント-192.168.2.249			
状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
✓	CPU	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
✓	Disk	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
✓	Memory	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
✓	Network	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
基本サービス			
状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
...	Domain Name Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
✓	Email Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
...	FTP Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
...	MySQL Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
✓	OpenSSH Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
...	Telnet Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
...	Web Server	Sun	火, 16 3 2004 20:51:36
その他のシステムサービス			
状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
...	RAID	CNP	火, 16 3 2004 20:51:36

図 2 詳細情報テーブル

UI の再表示

「Critical Events」テーブルの上に「Refresh」ボタンがあります。このボタンは、UI フレームを更新し、データベース内の最新の情報を反映します。

しかし、このボタンは管理対象ホストからの新しい情報でデータベースを更新するものではありません。データベース内の情報を更新する方法については、10 ページの「健全性状態データの更新」を参照してください。

Sun Cobalt サーバーアプライアンス上で監視されるサービス

Sun Cobalt サーバーアプライアンス上で監視されるサービスは、次のとおりです。

注 - 以下のサービスすべてが、各種の Sun Cobalt サーバーアプライアンス上で利用可能なわけではありません。

- Active Server Page (ASP)
- Appleshare
- Buffer Overflow Protection
- DHCP サーバー
- DNS サーバー
- Email サーバー (POP / IMAP / SMTP)
- FTP サーバー
- JavaServer Pages™ (JSP™) と Servlets
- Scan Detection
- サーバーデスクトップ
- SNMP サーバー
- Telnet サーバー
- Web サーバー
- Windows File Sharing サーバー

Sun Cobalt サーバーアプライアンス以外のホスト上で監視されるサービス

サーバーアプライアンス以外のホスト上で監視されるサービスは、次のとおりです。

- DNS サーバー
- Email サーバー
- FTP サーバー
- MySQL サーバー
- SSH サーバー
- Telnet サーバー
- Web サーバー

重大イベントのクリア

管理対象ホストで発生した重大イベントは、「Critical Events」テーブルに表示されます。特に対処しない重大イベントは、「Critical Events」テーブルからクリアできます。問題自体は管理対象ホストに残りますが、以後「Critical Events」テーブルのこの重大イベントに関する通知はなくなります。

注 - 同じ管理対象ホストで異なる問題に関する重大イベントが発生した場合は、テーブルに新しい重大イベントとして表示されます。

「Critical Events」テーブルから特定の重大イベント、またはすべての重大イベントをクリアする手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Health Summary」を選択します。
「Critical Events」テーブルと「Managed Host Group Status」テーブルが表示されます。
2. テーブルから特定の重大イベントをクリアするには、「Actions」列内の該当するイベントの隣にある削除アイコンをクリックします。
「Critical Events」テーブルが更新され、テーブルからその重大イベントが削除されます。
3. テーブルからすべての重大イベントをクリアするには、テーブルの上にある「Clear Critical Events」をクリックします。
「Critical Events」テーブルが更新され、すべてのエントリが削除されます。

健全性状態データの更新

各ホストの健全性状態データを更新できます。この操作を行うと、Control Station は、ホストから最新の健全性状態データを即座に取得します。

あるホストに関する詳細情報テーブルを表示すると、UI に「Update Now」ボタンが表示されます。

管理対象ホストの健全性状態データを更新する手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Health Summary」を選択します。
「Critical Events」テーブルと「Managed Host Group Status」テーブルが表示されます。
2. 「Actions」列内の該当する項目の隣にある虫めがねのアイコンをクリックします。
詳細情報テーブルが表示されます。
3. 重大イベントの詳細を表示すると、次の情報テーブルが表示されます。
 - Base System Components
 - Base Services
 - Other System Services
4. 管理対象ホストグループに関する詳細を表示している場合は、「Managed Hosts State」テーブルが表示され、そのグループに属するホストの一覧が提示されます。
ここでも、「Actions」列内のホストの隣にある虫めがねのアイコンをクリックできます。上記と同じ3つの情報テーブルが表示されます。
5. ホストの詳細情報テーブルを表示している画面で、テーブルの上にある「Update Now」をクリックします。
この操作によって、Control Station は管理対象ホストからデータを即座に取得します。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。
6. 前の画面に戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

ホストの表示

それぞれの管理対象ホストに関する総合的な健全性を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「View Hosts」を選択します。

「Managed Hosts State」テーブルが表示され、管理対象ホストの一覧が表示されます (図 3 を参照)。

注 - 「Managed Hosts State」テーブルに 10 を超えるエントリがある場合は、最初の 10 エントリがテーブルに表示されます。テーブルの下ボタンで、それ以外の範囲にあるエントリを選択できます。

2. 個々のホストの詳細を表示するには、「Actions」列内の該当するホストの隣にある虫めがねのアイコンをクリックします。

次の情報テーブルが表示されます。

- Base System Components
- Base Services
- Other System Services

前の画面に戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

3. ホストの詳細情報テーブルを表示している画面で、テーブルの上にある「Update Now」をクリックします。

この操作によって、Control Station は管理対象ホストからデータを即座に取得します。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

4. 前の画面に戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

表示の更新

管理ホストの状態			
現在の項目:1-10		項目全体:4	
状態	IP	日付 / 時刻	処理
	192.168.2.250	木, 18 3 2004 11:33:28	
	192.168.2.251	水, 17 3 2004 18:35:34	
	192.168.2.249	木, 18 3 2004 10:55:02	
	192.168.2.252	木, 18 3 2004 13:15:56	

図 3 「Managed Hosts State」 テーブル

UI の再表示

「Managed Hosts State」テーブルの上に「Refresh」ボタンがあります。このボタンは、UI フレームを更新し、データベース内の最新の情報を反映します。

このボタンは管理対象ホストからの新しい情報でデータベースを更新するものではありません。

設定

アライブポーリング

この機能を使うと、管理対象ホスト上でエージェントが動作し、そのホストにネットワーク経由でアクセス可能であることを Control Station から確認できます。この機能は、次のような仕組みです。

1. Control Station が、単純なエージェント要求を送信します。

この要求がうまく配信されれば、エージェントは適切に動作しており、ホストにネットワーク経由でアクセス可能です。「Base System Components」テーブル内のネットワークコンポーネントの状態は緑色になります。

このエージェント要求がうまく配信されない場合、ネットワークコンポーネントの状態は赤になります。図2の例を参照してください。

2. 配信に「失敗した」エージェントのあるホストは、目録データによって、ネットワークの接続性が確認されます。

この ICMP の ping が成功すると、データベース内の健全性監視情報テーブルに、Control Station が、特定の IP アドレスを持つホスト上のエージェントにアクセスできなかったことが記録されます。

この ICMP の ping が失敗すると、データベース内の健全性監視情報テーブルに、Control Station が、特定の IP アドレスを持つホストにネットワークを介してアクセスできなかったことが記録されます。

動作状況ポーリング

「Status Polling Interval」では、管理対象ホストからデータを取得するためのポーリングサイクルを開始する間隔 (4 時間ごとなど) を設定します。

このポーリング間隔を設定する場合は、Control Station が管理するホスト数を考慮する必要があります。管理対象ホストは、順番にポーリングされます。Control Station が (SCS エージェントエラーを含め) アクセスできないホストに遭遇した場合、そのホストをポーリングするタイムアウト時間は 10 分です。

Control Station が、1 回のポーリングサイクル中に複数のアクセス不能ホストに遭遇した場合、指定されたサイクルが次のポーリングサイクルの開始までに完了しないことがあります。

最小動作状況ポーリング間隔は、1 時間です。Sun Control Station が多数のホストを管理している場合には、長めの間隔を設定する必要があります。

設定の構成

Health Monitoring 制御モジュールを設定する手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Settings」を選択します。

「Health Monitor Properties」テーブルが表示されます (図 4 を参照)。

2. 次のパラメータを設定します。

- 「Enable Event」 - このチェックボックスを有効にすると、すべての管理対象ホストが、ホスト上で生成されたすべてのイベントを Control Station に送信します。このチェックボックスを有効にしない場合、Control Station にイベントは送信されません。

イベントは、ポート 80 で Control Station に送られます。

この機能は、ポーリング中に検知されたイベントに影響を与えません。

- 「Notification Email Address」 - ここで指定する電子メールアドレスには、重大なシステムイベント (赤色アイコンで示されるイベント) の発生時に、Health Monitoring モジュールから警告が送信されます。

このフィールドには、電子メールアドレスをひとつだけ入力できます。

注 - ホストを Control Station に追加するときに、そのホストの管理者の電子メールアドレスを入力すると、その電子メールアドレスは、そのホストに対する Health Monitoring モジュールからの通知も受信するようになります。

- 「CPU Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、CPU の平均負荷を表します。デフォルトの値は 3 で、推奨最大値は 7 です。
- 「CPU Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、CPU の平均負荷を表します。デフォルトの値は 6 で、推奨最大値は 15 です。

- 「Disk Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、ハードディスクドライブの使用比率を表します。デフォルトの値は 80 で、推奨最大値は 90 です。

たとえば 80 の値は、ハードディスクドライブの容量の 80% が使用されているときに、黄色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

- 「Disk Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、ハードディスクドライブの使用比率を表します。デフォルトの値は 90 で、推奨最大値は 95 です。

たとえば 90 の値は、ハードディスクドライブの容量の 90% が使用されているときに、赤色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

- 「Memory Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、メモリーの使用比率を表します。デフォルトの値は 50 で、推奨最大値は 75 です。

たとえば 50 の値は、メモリーの 50% が使用されているときに、黄色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

- 「Memory Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、メモリーの使用比率を表します。デフォルトの値は 75 で、推奨最大値は 90 です。

たとえば 75 の値は、メモリーの 75% が使用されているときに、赤色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

3. 「Save」をクリックします。

「Health Monitor Properties」テーブルが更新されます。

新規アライブポーリングのスケジュール
新規状態ポーリングのスケジュール

健全性監視のプロパティ

イベントの有効化	☒
通知電子メールアドレス	
CPU の黄色アラーム	3
CPU の赤色アラーム	6
ディスクの黄色アラーム	80
ディスクの赤色アラーム	90
メモリーの黄色アラーム	50
メモリーの赤色アラーム	75

保存
取消し

図 4 「Health Monitor Properties」 テーブル

アライブポーリングタスクのスケジュール作成

新たに アライブポーリングタスクのスケジュール作成を行う手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Settings」 を選択します。

「Health Monitor Properties」 テーブルが表示されます。

2. テーブルの上の「Schedule New Alive Polling」をクリックします。

「Schedule Settings For Alive Polling」 テーブルが表示されます。次のパラメータを設定します。

- 「Run Interval」 - Control Station が管理対象ホストと通信を試行する間隔を設定する。たとえば、6 時間ごとなどに設定する
- 「Run Minute(s)」 - アライブポーリングタスクを実行する時刻の分を選択する。分を強調表示にし、矢印キーを使ってスクロールウィンドウ間を移動させる
- 「Email Address」 (省略可能) - アライブポーリングタスクの実行が通知される人の電子メールアドレスを入力する
- 「Notify When Starting」 - タスクの開始時に通知する場合、このチェックボックスを有効にする

- 「Notify When Finished」 - タスクの完了時に通知する場合、このチェックボックスを有効にする
3. 「Save」または「Cancel」をクリックします。

「Cancel」をクリックした場合、スケジュールされたタスクは保存されません。
「Scheduled Tasks」テーブルが表示されますが、キャンセルされたタスクは表示されません。

「Save」をクリックした場合、スケジュール設定されたタスクが、スケジュールされているタスクの一覧に追加されます。「Scheduled Tasks」テーブルに、新規タスクが表示されます。
 4. このテーブルで、スケジュールが設定されているタスクの詳細を表示したり、タスクを変更または削除したりできます。

スケジュールされたタスクの詳細を表示するには、虫めがねのアイコンをクリックします。

スケジュールされたタスクを変更するには、鉛筆のアイコンをクリックします。

スケジュールされたタスクを削除するには、削除のアイコンをクリックします。

動作状況ポーリングタスクのスケジュール作成

新規動作状況ポーリングタスクのスケジュール作成を行う手順は、次のとおりです。

1. 「Health Monitor」 > 「Settings」を選択します。

「Health Monitor Properties」テーブルが表示されます。
2. テーブルの上の「Schedule New Status Polling」をクリックします。

「Schedule Settings For Status Polling」テーブルが表示されます。次のパラメータを設定します。

 - 「Run Interval」 - Control Station が管理対象ホストからのデータを要求する間隔を設定します。たとえば、6 時間ごとなどに設定する
 - 「Run Minute(s)」 - 動作状況ポーリングタスクを実行する時刻の分を選択する。分を強調表示にし、矢印キーを使ってスクロールウィンドウ間を移動させる
 - 「Email Address」 (省略可能) - 動作状況ポーリングタスクの実行が通知される人の電子メールアドレスを入力する
 - 「Notify When Starting」 - タスクの開始時に通知する場合、このチェックボックスを有効にする

- 「Notify When Finished」 - タスクの完了時に通知する場合、このチェックボックスを有効にする

3. 「Save」または「Cancel」をクリックします。

「Cancel」をクリックした場合、スケジュールされたタスクは保存されません。

「Scheduled Tasks」テーブルが表示されますが、キャンセルされたタスクは表示されません。

「Save」をクリックした場合、スケジュール設定されたタスクが、スケジュールされているタスクの一覧に追加されます。「Scheduled Tasks」テーブルに、新規タスクが表示されます。

4. このテーブルで、スケジュールが設定されているタスクの詳細を表示したり、タスクを変更または削除したりできます。

Health Monitoring モジュールへの新規サービスの追加

Health Monitoring モジュールには、実行および監視用にカスタマイズされたスクリプトを組み込むことができます。スクリプトの実行結果により、Sun Control Station 上でアラームや重大イベントを生成するイベントが送付されます。そのイベントに関する特定の情報は、詳細情報画面の「Other Services」テーブルに表示されます。

「Critical Event」テーブルをクリアすると、アラームはリセットされます。

カスタマイズを簡単に行えるように、Health Monitoring モジュールは、カスタマイズされたスクリプトに関する詳細を指定するための設定ファイルを使用します。この設定ファイルから、健全性監視デーモンは監視の名前、説明、実行するプログラム、およびそのプログラムが提供するそれぞれの状態に関するテキストを取得します。

状態は、0、1、2、または3の値を取ります。これらの値は、問題の重大度、つまり健全性監視テーブルに表示される状態の色やアイコンに対応します。状態は次のように規定されています。

- 状態 0 = 利用できないサービス (点線の灰色アイコン)
- 状態 1 = 通常動作中のサービス (チェックマークの緑色アイコン)
- 状態 2 = 注意を要する状態 (感嘆符の黄色アイコン)
- 状態 3 = 深刻なエラー状態 (X 印の赤色アイコン)

設定ファイルの形式

設定ファイルの形式は、次のようになっています。

- version - 設定ファイルまたは監視スクリプトのバージョン

例 : version 1.0

- Program - 各間隔で実行するスクリプトのフルパス名

例 : /usr/mgmt/bin/cobalt_db.pl

- vendor - 監視機能のベンダーまたは所有者を指定する文字列

例 : Vendor Test

- interval - 監視機能が実行される間隔です。分単位で指定

例 : 10

- name - 監視機能の名前を指定する文字列

例 : Database Check

- description - 監視機能の概要を記載する文字列で

例 : データベースの監視

- state0msg - 「入手不能」(灰色の丸アイコン) 状態のときに、イベントと共に送信するメッセージを指定する文字列

例 : データベースサーバーが監視されていないか、あるいは状態を入手できません。

- state1msg - 「良好」(緑色の丸アイコン) 状態のときに、イベントと共に送信するメッセージを指定する文字列

例 : データベースサーバーはオンラインです。

- state2msg - 「注意」(黄色の丸アイコン) 状態のときに、イベントと共に送信するメッセージを指定する文字列

例 : データベースサーバーは無視されている状態です。

- state3msg - 「深刻なエラー」 (赤色の丸アイコン) 状態のときに、イベントと共に送信するメッセージを指定する文字列

例：データベースサーバーはオフラインです。

設定ファイル内に指定されたプログラムは、0、1、2、または3の値を戻す必要があります。Health Monitoring デーモンが (約 10 分間隔で) ポーリングパスを実行するときに、設定ファイルに指定されたプログラムが実行されます。

結果 (0、1、2、または3の値) が取得され、プログラムが最初に実行された後に保存されます。その後、健全性監視デーモンが起動するたびに、結果は前の結果と比較されます。結果が異なる場合には、イベントが生成され、Control Station に送信されます。イベントには、状態、その状態に関連付けされたメッセージ、名称、バージョン、およびそのサービスに関する説明が含まれます。黄色または赤色で示される状態が戻されると、重大イベントが Control Station 上で生成され、UI の左上に動作状況警告が生成されます。

設定ファイルは /usr/mgmt/etc/hmd ディレクトリに配置し、監視スクリプトは /usr/mgmt/bin ディレクトリに配置します。

インストール時に、それらファイルが適切なディレクトリに配置され、デーモンが再起動されるように、インストールスクリプトにこれらの手順を含めてください。

新規サービスの作成

新規に健全性監視サービスを追加する手順は、次のとおりです。

1. 新規サービスに関する各種設定を含む設定ファイルを作成します。

filename.conf の形式で設定ファイルに名前を付けます (たとえば、cobalt_db.conf)。設定ファイルはすべて /usr/mgmt/etc/hmd ディレクトリに配置されます。

以下に設定ファイルの例を示します。

```
version 1.0

program /usr/mgmt/bin/cobalt_cpu.pl

detail :81/cgi-bin/.cobalt/cpuUsage/cpuUsage.cgi

vendor Sun

interval 10

name CPU
```

```

description Cobalt CPU Monitor
state0msg The CPU is not monitored/state unavailable.
state1msg The CPU is lightly used.
state2msg The CPU is moderately used.
state3msg The CPU is heavily used.
yellowalarm 3
redalarm 6
alarmtitle load of the CPU

```

2. 新規サービスを監視するスクリプトを作成します (設定ファイル内の「program」設定)。

これら監視スクリプトはすべて、`/usr/mgmt/bin` ディレクトリに配置されます。

たとえば、Database Check (`cobalt_db.pl`) サービスの監視スクリプトは次のようになります。

```

#!/usr/bin/perl
use strict;

# cobalt_cpu.pl - health monitoring script for the CPU
#
# Details:
#
# This script is used in conjunction with the health monitoring daemon (hmd)
# for use with "Big Daddy".IPC is accomplished by setting the proper exit
# code of this script. The following exit codes coincide with the following
# states:
#
# -1 - fatal error
# 0  - n/a      ( unmonitored/state unavailable )
# 1  - green   ( normal state )
# 2  - yellow  ( warning state )

```

```

# 3 - red      ( critical state )
#
# Based up the exit code, the hmd will react by sending an event to the
# management station with the information defined in the config file for
# this service.

my $yel_thresh = $ARGV[0] || 3;
my $red_thresh = $ARGV[1] || 6;
my $fifteen;

open(LOAD,"/proc/loadavg") or out(-1);
my $line = <LOAD>;
$line =~ /^(\d+\.\d+)\s*(\d+\.\d+)\s*(\d+\.\d+)/o;
close LOAD;
$fifteen = $3;

if ($fifteen >= $red_thresh) {
    exit 3;
} elsif ($fifteen >= $yel_thresh) {
    exit 2;
} else {
    exit 1;
}

```

3. インストールスクリプト内に、次のような新規の健全性監視サービス専用の指示語を含めます。

設定ファイルと監視スクリプトを正しい場所にコピーします。

```
echo "Copying script to /usr/mgmt/bin " >> $LOG
cp /YourDirectory/patches/cobalt_db.pl /usr/mgmt/bin/
echo "Copying config file to /usr/mgmt/etc/hmd " >> $LOG
cp /YourDirectory /patches/cobalt_db.conf /usr/mgmt/etc/hmd/
```

4. Sun LX50 サーバーや Sun Cobalt Qube™ 3 など、その新規の健全性監視サービスをインストールするそれぞれのホストの種類ごとにパッケージファイルを作成します。
5. Software Management モジュールを使って、Control Station にパッケージをアップロードします。Software Management モジュールを使用してパッケージを発行するか、あるいは選択したホストにインストールします。

詳細は、『Software Management モジュール』(PDF) を参照してください。

